

平成27年8月20日 第49号

版瓦

柳川郷土研究会
会誌「水郷」
付録
すいきょう

発行所 柳川郷土研究会
柳川市大和町栄1078-3
発行人 武末十治男
編集責任者 金子俊彦



「送金」二十才の一人息子を戦争で亡くして、既に三
数年、はや八十を越した老夫婦がひっそりと暮ら
している。

息子さえ生きていってくれたらと悔やみ、我が身の
不幸を嘆くことも少なくなろう、そう思って慰
める人がいる。

「火」「ともでもない、私達は幸せです」と応える。慰
めた人が怪訝な顔をする。「私達は息子からの送金
で暮らしているのです」ますます不思議になって、
「どういうことですか」と聞き返す。

「戦死の扶助料を国から頂いています。毎月六万
円あります、それから息子のためにと造っておいた
二階を貸して二万円、両方で八万円、老夫婦が暮ら
すには充分息子からろくに小遣いも貰えないとか、
いくつになっても苦勞させられる、とこぼす親も少
なくありません。若者に捨てられる年寄りもいます。
息子は何も迷惑をかけないばかりか、毎月きちんと
生活費を送ってくれます。命を捨てて親を養ってい
るのです。こんな親孝行者はいません。いつも息子
に守られているような気がして淋しいどころか、有
難いことだと思えます」慰めた人が逆に慰められて
帰って行く。「幸せ」とは何か、私はあらためて考
えるのである。

☆この文は昭和二十年の終戦から、三十数年の後に
書かれたもので、扶助料などの金額は現在と違いま
す。

※：「幸せ」とは何か？と文末にあります、幸せ
とはその人の考え方により異なるものではないでし
ようか？日頃の自分の行動でも、他人にも親切で思
いやりの心で接して、相手の方からの喜びの心が返
る事で、自分にもその幸せを感じながら毎日が過ご
せることだと思えます。